



しかし与太は、足場の悪い石畳でも、急な坂でも、階段でも固まらなかつた。首から片手が外れていたのに気づいた。御嶽の奥にいくとそこには黄色い蝶々が二羽、与太と嫁さんを待っていた。ヒラヒラと寄り添うように飛んでくれた。まるで何もかもわかっているよ。もう大丈夫だよ。と言われた。と云うた。二人は暖かい黄色い気に包まれた。それが神様なのか？御先祖様なのか？わからない。与太と嫁さんにしか見えていないのかも知れない。観光目的で来た人たちには感じられないものではないのかもしれない。

与太は基本的に霊的なものは信じない。ただ、これは…確実に…そこに…おられた。パワーストーンを頂きました。優しさを頂きました。ありがとうございます。沖縄での不思議な体験から1ヶ月たったか？たたないか？の頃、大西さんが針灸の先生をピースクラブに連れて来られた。春さんを見てもらうためにこられたと思っただけ、与太君もみてもらい、「このこと、受けてみることにした。二次障害が針で良くなるのは信じがたかった。」

この出会いは沖縄の御嶽の蝶々さんが運んで来てくれたものだと与太は勝手に思った。先生に自分でできることを聞いてみた。ぷらぷら歩いてくださいとのこと。通勤を歩きにすれば良いと思った。今もできる限り続けている。それから週一回、今も針の治療を受けている。薬は基本飲まないで行けるようになった。先生と大西さんに本当に感謝です。与太にとって二次障害はこれからも避けて通れない問題だと認識している。身体は老化現象。これは与太だけの問題ではない。誰もが平等に老いて行く。

そのなかで与太は無理をしない。適度な運動をする。飲み過ぎ、食べ過ぎをしない。基本的な生活改善だけ、これが大切だと痛感している。

これから与太は何年生きるかわからない。できる限り今を続けて行きたい。それは未来に備えることに他ならない。老いて行く身体をどう労り、どう向かい合うか、今の生活習慣が問われていると思う。最後に先生が与太によく言われる言葉を紹介したい。身体の声を聴きなさい。

春さん癒やしパワー全開 大西洋子

春さんの部屋は、春さんの気が充満している。針の先生は「いつも気持ちいい」と言っていて下さる。看病すべしとか言われるけれど、私が一番得しているかも。別に独占する気はないので、皆会いに来てね。バリバリの「健康者」だった春さんが「障がい者」になった意味を噛みしめている。おもしろいもんやねえ。

# 電動くるまです日記

## 寺内 隆

<ストロー5本で飲めよ>

こんにちは、寺内です、ちよつと僕の話の聞いてくれますか？

僕は、いつも大阪市阿倍野にあるあべ地下にある居酒屋に一人で飲みに行きます。その店の笑い話です。

その居酒屋は、カウンターだけで赤い丸椅子が15並んでいて、小さな店です。

居酒屋のおっさん(大将)は、僕と同じ年代で、顔は意地の悪いそうなの、怖いそうなの、僕は、そんなおっさんといつも喧嘩友達で、僕はいつも行ったら、

おっさんが「お前、帰れ！」とか「お前が食

べる物はないわ！」とかなわれます。

その時僕も負けず「やがまししくオニ瓦のような顔しやがって！」とか「動物園におる黒クマしやがって！」

「言うとおっさん、誰がクマやねん！」

「と言いながら電動車いすが入りやすいように、赤丸いすを除けてくれる」

「そんな優しい一面もあるおっさんですわ。」

僕とおっさんは、いつも口喧嘩のような仲のいいようなく分けのわからない関係ですわ!

ある日、僕はいつも「いど！」と言いながら店に入ると、おっさ

んは、黙ったまま、後を向いたままで他のお客さんの料理を作っていた。

暫くしてから「振り向きながら「ナニを飲む？」とおっさんは言った。僕は、「焼酎のお湯割り」、おっさんに言った。

「そうしたら おっさんが持つてきた「焼酎」の入ったコップを見る」と、なんと「テープで巻いた5本のストローを指して持つてきて、「これで飲め！」俺

「このサービスマンで！」と、おっさんは意地の悪いような笑顔を浮かべて、僕に言った。

「そう言うおっさんを見ながら僕は「よし、わかった！飲んだら」というと「5本のスト

ローを口に加え吸うと、かなりのパワーが必要で、なかなか飲めない僕を見て、「どうして飲めないのかな？」

とニヤツと笑うおっさんを見た僕はムカついて「ほんなら ストロー5本でおっさんも飲めやあ〜！」

「言う」と、俺はストローで飲めへんもん！手で飲むから」と言っておっさんはお茶を飲んでいった。

僕は「くそっ！くやしー！」と言いながら、注文した食べ物を食べ始めていた。

おっさんと僕の二人のやりとりの光景を見ていた他のお客さんは、おっさんに「おっさん！虐待やでー！」

「と言うと「虐待とちがう！俺からの愛情よ」と言うおっさんに、僕は「なにが愛情やね！？」

「オニ瓦の顔をしやがって！」と言うと「黙って！食べろっ！この酔っぱらい電動車いすめ」

「とおっさんとのやりとりは、店内はお客さん達の爆笑の渦が巻きおこしていた。



「あの電動車がいつの人は？」とか、「今日は来ないの？」とか言われるまでになつていった。

僕が店に行くといつものようにおっさんと僕とのやりとりしている光景をみているお客さんの爆笑が又店内に渦を巻き始めていた。笑いながらお客さんは「もつと言つてもいいよ〜！」と、僕を応援してくれる。

そんなお客さんをおっさんは「やがましいー！帰れ！」と言っておっさん「客とはまつたく思えない〜自分の思ったままに言う」おっさん「やっつた。」

そこには、「障害者虐待」とか「僕に優しく対応をする」とか関係なく、又そういう自覚もなく自分の感じたままにいうおっさんは：

僕がいつも何も言わなくても〜そのおっさんは、僕が食べやすいように細かく切つてくれたり、工夫してくれたりする一面のほんまの優しさを持っているおっさん。

### 聞き取りインタビュー

6月15日から来ている大賀厳くんインタビューしました。といつても、金曜日の居酒屋には毎週末来てくれますし、ガイヘルも、もう少し前から参加しています。

又、いつも来るお客さんと仲良くなり、僕が行った時に「まいど！」とか「元気か？」とか声をかけて一緒に飲む〜そんな店。僕にとつて、その居酒屋は心の良い、落ちつく店になつていて。

話し手 大賀 厳  
聞き手 猿橋 信

猿「ピースに来る前は？掃除の仕事してたとか」  
大「…」



答えたくなさそうです。ピースクラブ通信に載せるためにインタビューしていることを伝えました。

今日はこのあとの鶴見橋商店街でのパン売りが気になるようで、少しそわそわしています。カレンダーを見ながら話しかけてきました。

大「カ…カレンダー連休やな。…岸和田だんじり行くもん」  
猿「誰と行くの？」  
大「まだわからん。」

猿「お祭り好きやねえ。この前は地元の玉出の祭りに行ったよな。」  
大「そう、はっぴ着て」

猿「ピースでやりたいことはある？」  
大「パン売り。明日は毎日でもやりたいよ」

猿「パン屋さんかときどき呼んでくれるやる？パン屋さんでは何してるの」  
大「…」  
猿「袋詰めとか？」

大「そうそう」  
大「ふらーっとその場を離れた後、戻ってきてとんとんと呼びかけてくる。」

大「趣味、カラオケ」  
猿「何歌うの？」  
大「氷川…」  
猿「氷川きよし？ズンドコ節好きやな」

大「そうそう」  
大「ピース3階ではユーチューブでみつけた「きよしのズンドコ体操」というのを一緒にやっていますので、彼はいつものりのりです。今回はこま

で、パン売り頑張ってください。